

名古屋市観光客・宿泊客動向調査

(令和元年)

概要版

令和2年12月

名古屋市観光文化交流局

名古屋市観光客・宿泊客動向調査（令和元年）概要版

1 調査の目的

名古屋市内の主要な観光施設等の入込状況及び宿泊施設の概要、宿泊客数の把握並びに名古屋市を訪れる観光客の目的や特性等を調査し、名古屋市の観光行政の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査結果の概要

(1) 観光客の入込動向

【観光入込客統計に関する共通基準の採用】

名古屋市では、交流人口の核をなす観光入込客数の把握の精度を高め、観光施策の企画立案に必要な基礎データを整備するため、観光庁が定める「観光入込客統計に関する共通基準（平成25年3月改定）」に基づき実施した。令和元年については、全国観光統計基準に適合する108地点の観光入込客数を把握した。

【観光入込客延べ人数】

観光関連施設や行・祭事、イベント実施団体への入込客数調査によって観光入込客延べ人数を算出した。令和元年の名古屋市内の観光入込客延べ人数は約7,299万人となった。

■ 観光地点の分類別入込客数の推移（上段（ ）内：調査地点数、下段：入込客延べ人数）

観光地点等の分類		平成27年度	平成28年度	平成29年	平成30年	令和元年
大分類	中分類					
学ぶ (見る・体験する)	自然			(1) 54,692	(1) 52,124	(1) 52,872
	文化・歴史	(26) 23,556,367	(26) 23,300,401	(37) 23,848,487	(40) 25,157,487	(43) 22,718,096
	産業観光	(6) 2,274,288	(6) 2,149,817	(6) 1,364,185	(6) 1,306,959	(5) 1,351,347
遊ぶ (楽しむ・リフレッシュする)	スポーツ・レクリエーション施設	(16) 12,059,196	(15) 13,263,867	(22) 15,897,887	(22) 15,232,108	(23) 19,898,495
	温泉					
	買物					(2)
触れ合う (交流する)	行・祭事	(16) 8,021,482	(15) 8,592,346	(15) 6,255,906	(15) 7,803,274	(13) 5,120,679
	イベント	(20) 22,525,264	(21) 23,129,212	(22) 23,496,410	(22) 21,379,636	(21) 23,850,109
計		(84) 68,436,597	(83) 70,435,643	(103) 70,917,567	(106) 70,931,588	(108) 72,991,598

注：調査観光地点数は、年及び年度によって変動する。

参考：「観光入込客統計に関する共通基準（平成25年3月改定）」より抜粋

- ①非日常利用が多い（月1回以上の頻度で訪問する人数の割合が半分未満）と判断される地点であること。
- ②観光入込客が適切に把握できる地点であること。
- ③前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上であること。

この報告書に記載のある数値は四捨五入しているため、内訳の合計が合わない場合があります。

【観光入込客実人数の推計】

観光客の現状調査の回答により、平均訪問観光地点を設定し、観光入込客実人数を推計した。令和元年の観光入込客実人数は4,999万人となった。

宿泊施設調査により、宿泊客実人数を推計し、観光客調査により、居住地割合を設定し、名古屋市内・市外別の宿泊客・日帰り客実人数を推計した。

■ 観光入込客実人数の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年	平成30年	令和元年
観光入込客延べ人数（人）	68,436,597	70,435,643	70,917,567	70,931,558	72,991,598
平均訪問観光地点数	1.58	1.49	1.50	1.50	1.46
観光入込客実人数（万人）	4,331	4,727	4,728	4,729	4,999
宿泊客実人数（万人）	653	639	625	677	712
日帰り客実人数（万人）	3,678	4,088	4,103	4,052	4,287

■ 市内・市外別宿泊客数・日帰り客数の推計

	実人数計	居住地割合		観光入込客実人数	
		名古屋市内	名古屋市外	名古屋市内	名古屋市外
観光入込客	4,999万人	43.1%	56.9%	2,155万人	2,844万人
宿泊客	712万人	4.1%	95.9%	29万人	683万人
日帰り客	4,287万人			2,126万人	2,161万人

【観光消費額の推計】

観光客調査により、観光入込客の名古屋市内での消費額を設定し、観光総消費額を推計した。令和元年の名古屋市内の観光総消費額は4,268億円となった。

■ 宿泊・日帰り別観光総消費額の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年	平成30年	令和元年	
宿泊客一人あたり消費額	26,353円	24,530円	25,498円	29,296円	31,304円	
日帰り客一人あたり消費額	名古屋市内	3,215円	2,905円	3,090円	2,842円	3,088円
	名古屋市外	7,292円	6,211円	6,558円	6,795円	6,400円
宿泊客総消費額	1,720億円	1,567億円	1,595億円	1,983億円	2,229億円	
日帰り客総消費額	名古屋市内	474億円	496億円	560億円	561億円	657億円
	名古屋市外	1,606億円	1,478億円	1,501億円	1,414億円	1,383億円
名古屋市内観光総消費額	3,800億円	3,541億円	3,656億円	3,958億円	4,268億円	

■ 観光消費額の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年	平成30年	令和元年
食事費消費額	1,096億円	1,082億円	1,145億円	1,162億円	1,341億円
交通費消費額	438億円	435億円	418億円	421億円	517億円
土産費消費額	900億円	773億円	741億円	748億円	802億円
宿泊費消費額	584億円	523億円	604億円	805億円	794億円
入場料消費額	363億円	345億円	364億円	373億円	431億円
その他消費額	419億円	383億円	384億円	449億円	383億円
観光総消費額	3,800億円	3,541億円	3,656億円	3,958億円	4,268億円

■ 観光客一人あたりの平均消費額

	宿泊客	日帰り客	
		市内居住	市外居住
食事費	8,803円	1,154円	2,170円
交通費	2,014円	460円	1,277円
土産費	4,898円	622円	1,484円
宿泊費	11,145円		
入場料	1,899円	537円	842円
その他	2,545円	314円	627円
合計	31,304円	3,088円	6,400円

■ 主な旅行費用項目別消費額の推計

	宿泊客	日帰り客		観光集計
		市内居住	市外居住	
食事費消費額	627億円	245億円	469億円	1,341億円
交通費消費額	143億円	98億円	276億円	517億円
土産費消費額	349億円	132億円	321億円	802億円
宿泊費消費額	794億円			794億円
入場料消費額	135億円	114億円	182億円	431億円
その他消費額	181億円	67億円	135億円	383億円
観光総消費額	2,229億円	656億円	1,383億円	4,268億円

(2) 観光地点入込客の実態

名古屋駅、栄エリア（オアシス 21、観光案内所）をはじめとする 9 観光エリアにおいて、令和元年 10 月 9 日（水）、10 月 19 日（土）、10 月 20 日（日）、10 月 26 日（土）、10 月 27 日（日）、11 月 20 日（水）、11 月 28 日（木）の 7 日間、調査員が対面聞き取りにより調査した（合計 1,730 サンプル）。

■ 調査観光地点とサンプル数

	名古屋駅	栄エリア（オアシス 21、観光案内所）	名古屋城（金シャチ横丁含む）	金城ふ頭エリア	名古屋港水族館	大須観音	東山動植物園	熱田神宮	名古屋市科学館	合計
サンプル数	150	205	151	206	200	202	206	209	201	1,730

【観光地点別入込客の特性】

居住地をみると、ほとんどの観光地点で名古屋市内の割合が最も多い中、「名古屋城」や「熱田神宮」では関東からの訪問が多くなっている。

年代別にみると、「金城ふ頭エリア」が 30 代から 40 代の訪問率が高く、「名古屋港水族館」は 20 代、30 代、「大須商店街」は 20 代の割合が高い。「東山動植物園」は 30 代が高く、「名古屋市科学館」では 30 代、「熱田神宮」、「名古屋城」では 40 代の訪問率が高くなっている。

（本編参照）

■ 入込客の居住地構成

(単位：%)

東海				関東	近畿	北陸・甲信越	北海道・東北	中国・四国	九州・沖縄	その他
	名古屋市	愛知県（名古屋市を除く）	岐阜県・三重県・静岡県							
75.7	43.1	23.5	9.0	8.1	6.4	2.5	2.5	2.6	1.7	0.5

【観光入込客の遊覧状況】

一人あたりの訪問施設数は 1.46 施設である。

観光地点相互でみると、「熱田神宮」への来訪者が「名古屋城」にも訪れる割合が高い他、「金城ふ頭エリア」では、「レゴランド®・ジャパン」、「リニア・鉄道館」が近距離にあることでセットで訪れる割合が高くなっている。

■ 主な観光施設入込客の遊覧状況

(単位：%)

訪問施設	名古屋城	トヨタ産業技術記念館	徳川園	熱田神宮	白鳥庭園	東山動植物園	東山スカイタワー	名古屋テレビ塔	名古屋市美術館	愛知県美術館	名古屋市科学館	レゴランド®・ジャパン	リニア・鉄道館	平均訪問施設数(施設)
調査エリア														
名古屋駅	18.7	1.3	3.3	8.0	0.0	1.3	0.0	4.0	1.3	0.7	2.0	3.3	1.3	1.4
栄エリア (オアシス21、観光案内所)	6.8	2.0	2.4	3.4	0.5	1.5	0.0	4.4	3.9	6.8	2.9	1.5	2.0	1.3
名古屋城 (金シャチ横丁含む)	91.4	4.0	7.9	16.6	0.0	2.6	0.7	2.6	0.7	0.0	2.6	2.6	0.0	1.7
金城ふ頭エリア	6.3	4.9	1.5	5.3	0.0	1.9	0.5	0.0	1.9	2.4	0.5	49.5	29.6	1.4
名古屋港水族館	2.5	1.0	0.5	1.0	0.5	2.0	0.0	0.5	0.0	0.5	3.0	3.0	1.5	1.6
大須商店街	7.4	2.0	1.5	5.9	1.0	2.0	1.5	8.4	3.5	1.0	4.0	1.0	0.0	1.3
東山動植物園	6.8	1.0	3.4	3.9	1.5	93.2	6.8	1.9	1.9	1.0	2.4	3.4	0.5	1.6
熱田神宮	24.4	0.5	1.4	97.1	0.5	0.5	0.0	2.4	0.5	0.5	0.5	0.0	0.5	1.6
名古屋市科学館	7.0	3.0	1.5	6.0	0.0	4.0	1.5	0.5	4.0	1.0	76.1	0.0	1.0	1.4

その他施設については本編参照

※複数回答

【観光入込客の旅行費用】

今回の旅行費用の平均額は、交通費 1,054 円、土産代 1,672 円、食事代 2,811 円、入場料 885 円である。また、宿泊者の 1 泊の宿泊代は 11,145 円となっている。

■ 主な観光施設入込客の市内での消費額

	交通費	土産代	食事代	宿泊代	入場料	その他の費用
平均額 (円)	1,054	1,672	2,811	11,145	885	804

【名古屋の印象・旅行の満足度】

名古屋市外からの入込客の名古屋の印象・旅行の満足度は、全体で「大変満足」（23.8%）と「ほぼ満足」（41.3%）を合わせた65.1%が満足と評価している。

■ 入込客の名古屋の印象・旅行の満足度

(単位：%)

印象・満足度		大 変 満 足	ほ ぼ 満 足	普 通	や や 不 満	不 満
観光 地点	名古屋駅	10.5	41.1	48.4	0.0	0.0
	栄エリア（オアシス21、観光案内所）	17.4	31.4	46.5	4.7	0.0
	名古屋城（金シャチ横丁含む）	27.0	46.7	25.4	0.0	0.8
	金城ふ頭エリア	21.3	41.8	33.6	1.6	1.6
	名古屋港水族館	20.0	46.7	33.3	0.0	0.0
	大須商店街	18.1	31.3	50.6	0.0	0.0
	東山動植物園	30.4	44.3	25.2	0.0	0.0
	熱田神宮	38.1	34.7	23.8	3.4	0.0
	名古屋市科学館	21.0	50.0	25.8	3.2	0.0
地域	東海	21.1	38.5	39.3	1.1	0.0
	愛知県（名古屋市を除く）	19.2	38.6	41.0	1.2	0.0
	岐阜県	20.7	37.8	41.5	0.0	0.0
	三重県	26.8	41.5	29.3	2.4	0.0
	静岡県	39.4	36.4	24.2	0.0	0.0
	関東	25.0	50.7	22.1	1.4	0.7
	近畿	17.3	51.8	26.4	3.6	0.9
	北陸・甲信越	25.0	43.2	27.3	4.5	0.0
	その他	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
性別	男性	20.4	40.3	36.9	1.8	0.7
	女性	26.6	42.1	30.0	1.3	0.0
年齢	10～19歳	33.3	41.2	25.5	0.0	0.0
	20～29歳	27.4	39.4	31.7	1.4	0.0
	30～39歳	23.5	44.0	30.5	2.0	0.0
	40～49歳	23.2	38.9	36.4	1.0	0.5
	50～59歳	20.2	39.5	37.7	1.8	0.9
	60～69歳	17.9	42.9	34.8	3.6	0.9
	70～79歳	25.3	46.2	28.6	0.0	0.0
	80歳以上	10.0	30.0	60.0	0.0	0.0
全 体		23.8	41.3	33.1	1.5	0.3

(3) 宿泊施設の状況

市内宿泊施設に調査票を配布し、施設の概要ならびに宿泊者数などを把握した。市内の総宿泊者数は、回答施設の実績から未回答分を推計し算出した。

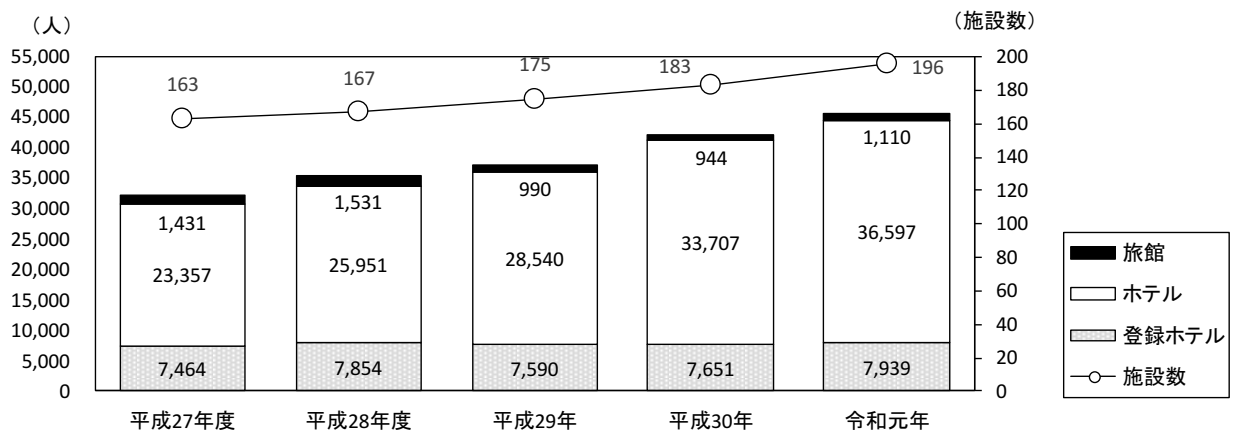
【宿泊施設数】

施設数では、登録ホテルが16施設、登録ホテルを除くホテルは155施設、旅館は25施設。また、室数の合計は30,118室、収容人数の合計は45,646人で、昨年より合計施設数では8施設、部屋数は2,312室、収容人数は3,344人の増加となった。

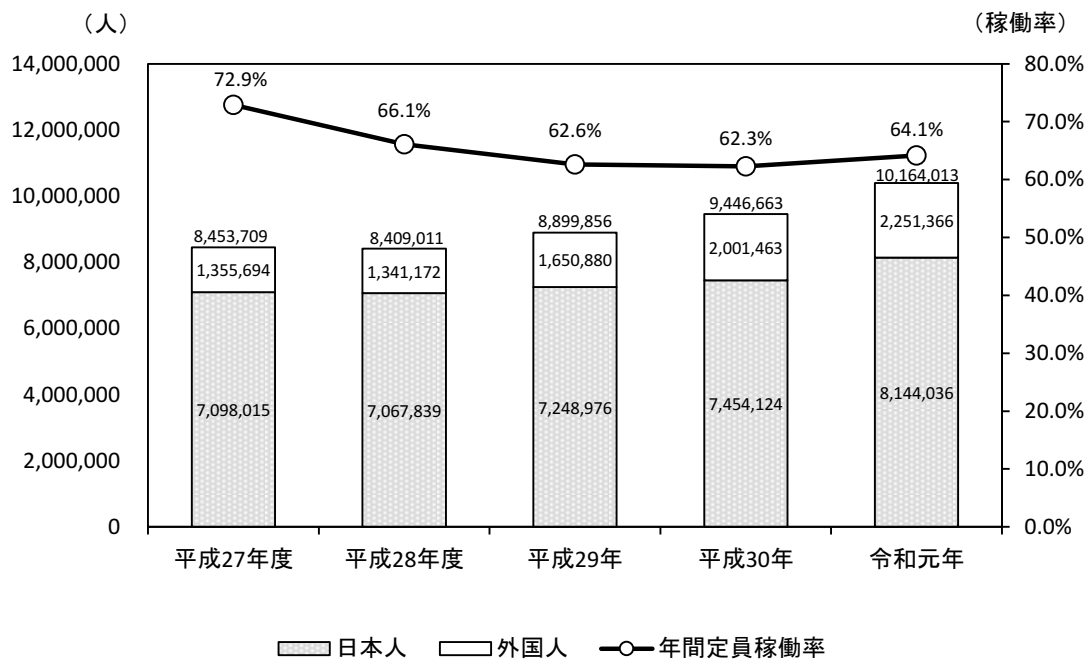
【年間宿泊者数】

令和元年の全施設の年間総延べ宿泊者数は約1,016万人泊であった。また、全施設の年間総実人数は約712万人となっており、一人あたりの宿泊日数は約1.40日と推計される。

■ 市内宿泊施設収容人数及び施設数の推移



■ 施設延べ宿泊者数の推移



■ 推計年間宿泊者数及び年間定員稼働率の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年	平成30年	令和元年
推計総実人数（人）	6,529,101	6,387,048	6,247,166	6,765,086	7,118,240
うち外国人	1,019,011	893,487	1,115,713	1,284,032	1,347,440
推計延宿泊者数（人）	8,453,709	8,409,011	8,899,856	9,446,663	10,164,013
うち外国人	1,355,694	1,341,172	1,650,880	2,001,463	2,251,366
年間定員稼働率（%）	72.9	66.1	62.6	62.3	64.1

注：年間定員稼働率とは、定員に占める宿泊者数の割合を示す。客室稼働率とは異なる。
 年間定員稼働率＝年間延べ宿泊者数÷年間収容可能人数

【国別外国人宿泊者数】

国別に外国人宿泊者数の回答が得られた施設は81施設であった。

国別では、「中国」が全体の42.54%と最も多く、施設分類別にみても、すべてのタイプの施設で中国の宿泊者が最も多くなっている。次いで台湾（18.59%）、香港（10.69%）とつづく。

■ 国別外国人宿泊者数

	令和元年						平成30年
	登録ホテル	ホテル	旅館	全体			全体 割合 (%)
				回答人数 (人)	推計人数 (人)	割合 (%)	
回答数（施設数）	8	68	5	81			
中国	87,092	343,435	93	430,620	573,219	42.54	37.22
台湾	18,609	169,532	15	188,156	250,463	18.59	16.91
香港	17,393	90,853	0	108,246	144,091	10.69	13.77
タイ	26,384	76,333	11	102,728	136,746	10.15	6.82
韓国	13,630	56,957	17	70,604	93,984	6.98	7.94
米国	5,500	17,526	0	23,026	30,651	2.27	7.38
シンガポール	3,609	13,122	0	16,731	22,271	1.65	2.27
ベトナム	1,914	10,384	39	12,337	16,422	1.22	1.35
オーストラリア	3,244	8,339	1	11,584	15,420	1.14	1.15
マレーシア	1,271	8,275	0	9,546	12,707	0.94	1.08
インドネシア	2,558	6,212	10	8,780	11,687	0.87	1.05
英国	1,343	7,133	0	8,476	11,283	0.84	0.84
ドイツ	1,175	4,683	0	5,858	7,798	0.58	0.88
フランス	968	4,175	1	5,144	6,847	0.51	0.59
フィリピン	0	905	6	911	1,213	0.09	0.15
カナダ	0	827	0	827	1,101	0.08	0.10
イスラエル	330	330	0	660	879	0.07	0.11
カンボジア	0	372	0	372	495	0.04	0.07
ブラジル	0	267	5	272	362	0.03	0.00
スペイン	0	98	0	98	130	0.01	0.02
インド	0	84	0	84	112	0.01	0.05
ニュージーランド	0	83	0	83	110	0.01	0.00
メキシコ	0	68	0	68	91	0.01	0.00
イタリア	0	48	3	51	68	0.01	0.01
スリランカ	0	0	5	5	7	0.00	0.00
ロシア	0	5	0	5	7	0.00	0.01
スイス	0	4	0	4	5	0.00	0.00
その他	0	6,957	6	6,963	9,269	0.69	0.60
合計	185,020	827,007	212	1,012,239	1,347,440	100.0	100.0

【修学旅行について】

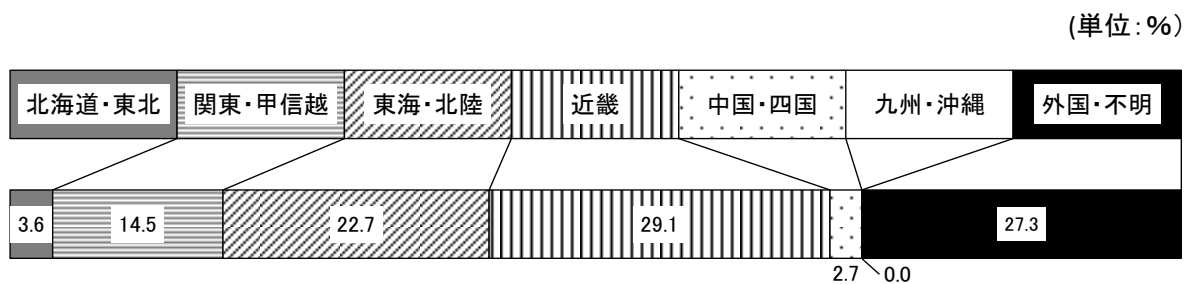
修学旅行を受け入れた宿泊施設は 12 施設で、学校数は 110 校、宿泊者数は 4,252 人であった。昨年に比べ学校数は 7 校増加、宿泊者数は 379 人減少している。

学校分類別では「小学校」が 35 校、「中学校」が 17 校、「高校」が 20 校、「その他」が 38 校となっている。(本編参照)

■ 修学旅行団体の受入実績の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年	平成30年	令和元年
学校数 (校)	116	113	98	80	110
宿泊者数 (人)	5,543	5,506	4,576	4,631	4,252

■ 地域別修学旅行団体入状況



(4) 全国から見た名古屋の観光に関する評価

名古屋への訪問実績や観光資源の認知度、観光に対する評価など名古屋の観光実態を把握するため、名古屋市を除く全国の18～79歳の男女個人を対象に、令和元年11月にインターネットを用いてアンケートを実施した（1,151サンプル）。

【観光資源について】

名古屋の主要な観光資源については、認知度、訪問・体験割合、訪問・体験意向ともに「名古屋城」がトップである。

■ 名古屋の主要観光資源について

(単位：%)

	名古屋城	金シャチ横丁	徳川美術館	熱田神宮	四間道	リニア・鉄道館	トヨタ産業技術記念館	ノリタケの森	名古屋科学館 (プラネタリウムなど)	白鳥庭園	名古屋港 (名古屋港水族館、 シートレインランド、 ポートビルなど)	東山動物園	栄 (名古屋テレビ塔、 久屋大通公園、 オアシス21など)
認知度	80.7	23.7	21.9	44.4	5.6	24.8	23.5	16.7	19.7	8.7	25.5	40.1	33.4
体験	48.4	20.5	16.7	28.2	6.5	15.2	13.6	7.5	13.8	5.0	16.1	16.3	30.7
訪問意向	44.7	23.7	19.3	25.3	5.8	17.0	16.0	12.0	13.9	8.5	17.5	20.9	13.6

	大須 (大須観音・大須商店街)	文化のみち (二葉館など)	有松・日本遺産 (町並み、有松、 鳴海絞会館など)	桶狭間の戦いゆかり の地	秀吉・清正記念館	レゴランド®・ジャパン	なごやめし (味噌煮込み、ひつまぶし、 きしめん、味噌カツ、 手羽先など)	名古屋まつり	につぼんど真ん中祭り	世界コスプレサミット	名古屋おもてなし 武将隊	その他	知っているもの はない
認知度	23.1	3.3	7.6	18.8	5.3	37.4	47.0	12.5	11.3	8.3	13.0	3.2	10.4
体験	19.8	4.6	5.8	5.2	4.2	7.9	35.3	6.7	6.7	4.6	5.0	7.5	10.2
訪問意向	11.4	5.3	9.1	12.0	10.1	16.0	43.2	9.3	5.8	7.1	6.2	4.4	6.2

【名古屋の観光地としての魅力について】

名古屋の観光地としての「魅力を感じる」は52.8%と半数を占め、「魅力を感じない」は15.5%と1割程度である。また「どちらともいえない」が3割となっている。

■名古屋の観光地としての魅力

(単位：%)

	魅力を感じる	魅力を感じない	どちらともいえない
全体 N=1,151	52.8	15.5	31.7

■名古屋に観光地としての魅力を感じない理由

(単位：%)

	他の観光都市と比べて観光イメージが希薄であること	名古屋の魅力が全国的に十分知られていないこと	名古屋の魅力が市民に十分知られていないこと	魅力ある観光施設が少ないこと	魅力あるイベントが少ないこと	魅力あるおみやげ品が少ないこと	交通アクセスが良くないこと	夜に楽しめる場所が少ないこと (観光施設の閉館時間が早いことなど)	観光客と接する事業者などの観光に対する意識が低いこと	まちがきれいでないこと	まちに緑が少ないこと	その他
全体 N=178	39.3	14.0	10.1	30.3	12.4	6.2	6.7	3.4	2.2	5.6	3.9	19.7

【観光振興について】

平成19年7月から主要観光施設等を周遊する観光ルートバス「メーグル」の認知度は、今回5.7%となり、利用意向は51.6%となった。

(5) 主要観光施設の入込客数

■ 主要観光施設別入込客数の推移

(単位：人)

施設	平成27年度	平成28年度	平成29年	平成30年	令和元年
名古屋城	1,740,178	1,919,479	1,830,404	2,175,483	2,205,544
東山動植物園	2,583,986	2,408,400	2,512,291	2,521,652	2,514,391
東山スカイタワー	314,000	284,399	287,025	272,771	273,380
名古屋テレビ塔 注1	325,462	299,953	297,436	316,524	10,307
熱田神宮	7,063,539	7,006,452	7,090,427	7,106,742	7,405,049
名古屋港	490,740	416,427	470,531	461,433	465,043
名古屋市科学館	1,382,275	1,379,293	1,277,909	1,362,519	1,335,840
徳川美術館	253,848	231,155	222,958	217,797	232,429
名古屋市博物館	437,550	451,666	447,718	451,453	523,006
東谷山フルーツパーク	483,182	480,833	428,631	418,892	503,145
農業文化園・戸田川緑地	1,119,575	1,156,780	1,075,147	1,074,356	1,062,155
でんきの科学館	313,455	243,722	279,932	308,754	339,828
名古屋市美術館 注2	151,513	314,351	185,339	682,826	349,676
名古屋港水族館	2,051,785	1,967,486	2,195,051	2,089,865	2,195,713
トヨタ産業技術記念館	413,435	430,956	460,098	425,972	459,353
白鳥庭園	150,944	159,153	151,919	145,698	165,877
市政資料館	72,322	78,375	80,143	100,402	108,023
名古屋能楽堂 注3	170,794	174,398	174,756	184,198	157,513
愛知県美術館	787,894	885,115	1,169,140	30,016	683,200
名古屋市農業センター	681,297	663,849	643,564	570,633	554,046
有松・鳴海絞会館	177,335	169,389	179,917	164,747	164,787
久屋大通庭園（フラリエ）	621,847	632,356	625,073	554,956	579,101
名古屋ボストン美術館 注4	142,590	196,006	125,619	194,100	—
ノリタケの森	357,730	329,167	313,551	333,713	327,871
ブルーボネット 注5	53,211	52,147	52,611	47,903	45,129
徳川園	320,341	320,335	300,498	328,011	352,563
文化のみち二葉館	37,555	34,085	32,174	31,253	33,750
スカイプロムナード	99,395	91,598	83,906	83,065	94,904
リニア・鉄道館	546,491	463,378	447,249	409,056	440,982
ナゴヤドーム	—	—	3,954,618	4,382,529	5,179,563
パロマ瑞穂スポーツパーク	—	—	1,449,293	1,332,061	1,474,347
主要観光施設の入込客数合計	23,344,269	23,240,703	28,844,928	28,779,380	30,236,515

注1：名古屋テレビ塔は平成31年1月より改修工事の為、休館。

注2：名古屋市美術館は令和元年7月に展示品入れ替えのため（一部の教育普及事業を除く）、休館。

注3：名古屋市能楽堂は令和元年8月に空調工事に伴い、休館。

注4：名古屋ボストン美術館は平成30年に閉館

注5：ブルーボネットは12月26日から翌2月末日まで冬季休園。



名古屋市観光客・宿泊客動向調査概要版
(令和元年)

令和2年12月発行

発行 名古屋市観光文化交流局
業務委託先 株式会社 サーベイリサーチセンター

(この冊子は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。)